

凸版印刷と souco、物流 DX 分野における倉庫ソリューション開発で協業

両社のもつ技術・ノウハウを掛け合わせ、多様化する保管需要に対し、様々な倉庫の遊休スペースを有効活用する新たなビジネスモデルの開発を目指し、資本業務提携を締結

凸版印刷株式会社(本社:東京都文京区、代表取締役社長:磨 秀晴、以下 凸版印刷)と、倉庫の空きスペースと荷物の保管場所を探す荷主のマッチングプラットフォーム「souco」を運営する株式会社 souco(ソウコ、本社:東京都千代田区、代表取締役:中原 久根人、以下 souco)は、物流 DX(デジタル・トランスフォーメーション)分野における倉庫ソリューション開発での協業に向け、2021年12月に資本業務提携契約を締結しました。

souco は、物流×ITのスタートアップ企業として「物流リソースの最適配分を支える」というミッションのもと、ユニットロード化された荷物を全国一律料金で保管することができる保管サービスのほか、大口利用顧客向けの個別のマッチングサービスを手掛け、今年6月時点での倉庫提供アカウントと倉庫利用(荷主企業)アカウントの合計数は2,000社超(※1)となっています。

また、凸版印刷は今年6月、デジタルピッキングシステム(※2)国内最大手の株式会社アイオイ・システム(本社:東京都大田区、代表取締役:多田 潔、以下 アイオイ・システム)を子会社化し(※3)、両社の持つ商品や技術、ノウハウを組み合わせて物流 DX 分野における運用支援サービス開発を推進しています。

本提携により、凸版印刷とアイオイ・システムが保有する物流倉庫の運用支援システムと、souco が持つ倉庫の遊休スペース活用サービスを融合し、多様化する保管需要に対して、ITを活用したアセットライタな物流倉庫の構築・運用を支援するビジネス等を検討していきます。



■ 提携の背景

近年、私たちの生活基盤を支える国内の物流業界は、深刻な人手不足の影響を受け、DXによって物流業界全体の労働環境の改善や人手不足を解消する、「ホワイト物流」を実現するためのロジスティクス・エコシステム構築の動きが加速しています。

また、国土交通省は「2021年総合物流施策大綱」内において、「倉庫内遊休スペースの有効活用によって、多様化する保管需要に対応する倉庫シェアリングを推進していく」と公表しており(※4)、国をあげての物流・倉庫業界の変革が求められています。

2016年に設立した souco は、B to B での倉庫シェアリングを中心とした物流サービスプラットフォーム「souco」を提供するスタートアップ企業です。提供する「souco」サービスは、物流施設・倉庫の空きスペースを抱える企業と、季節変動等により保管スペースを必要とする企業の情報を集約し、1年未満の短期利用を中心に、小ロット~1,000坪単位での倉庫利用をマッチングするサービスです。

また、souco はその他にも個別の倉庫マッチングや、輸送サービスの提供、遊休スペースの館内シェアリングサービスの提供を行っています。

一方、凸版印刷はニューノーマルの社会に向けたデジタルシフトの加速に対応する社会的価値創造企業を目指し、事業ポートフォリオ変革を進めています。DX事業については社内外に向けたDXのコンセプトを「Erhoht-X®(エルヘートクロス)」と名付け、デジタルテクノロジーと高度なオペレーションノウハウを掛け合わせ、データ活用を機軸としたハイブリッドなDX事業を創出しています。物流関連ではRFIDを活用したトレーサビ

リテイシステムや製造工程のデジタル化を支援する製造 DX ソリューション「NAVINECT®」などを展開するとともに、5G、IoT 時代のセンシングや AI、ロボット技術の研究などにも取り組んでいます。今年 6 月には、アイオイ・システムを子会社化し、物流 DX 市場への本格参入を進めています。

革新的なロボティクス技術・ソリューションの登場やピッキング工程に特化した新たな自動化技術の台頭への期待が高まる中、両社はそれぞれの強みを生かし、物流 DX 分野における倉庫ソリューションにおいて、新たなビジネスモデルの開発を目指します。

■ 提携内容について

・souco、凸版印刷、アイオイ・システムによる物流スキームの検討

souco が提供するマッチングプラットフォーム「souco」は、一時的かつ小ロットの保管を目的とした利用者が多く、荷姿ごとの単純保管と入出庫をメインのサービスとしています。今回の提携を機に、アイオイ・システムが保有するデジタルピッキングシステムの活用と、ピッキング・仕分け工程の効率化を希望するお客様のニーズに応えるソリューション開発を共同で検討します。

・souco の倉庫ネットワークを活用した凸版による BPO (ビジネス・プロセス・アウトソーシング) 業務の検討

倉庫利用者に提供するピッキング・仕分けや梱包配送などを含めたオペレーション業務を行うための企画立案及びサービスメニューの開発の検討を行います。

・倉庫利用者／提供者のニーズに沿う、新たな物流サービスの検討

倉庫利用者／提供者の抱える在庫管理や輸送コスト等の課題に対して、RFID を活用したトレーサビリティシステムをはじめとする「物流サービスの標準化・最適化」に向けた新たなソリューションを企画立案し、検証していきます。

■ 今後の目標

凸版印刷と souco は、双方の技術を掛け合わせた検証および共同研究・開発を推進し、2023 年度までに物流 DX 分野における事業創出を目指し、社会のさらなる DX (デジタル・トランスフォーメーション) を推進していきます。

■ 株式会社 souco について

本社: 東京都千代田区麴町 1-4-4 LIFULL HUB 2F

設立: 2016 年 7 月

代表取締役: 中原 久根人

事業概要・提供サービス: 倉庫シェアリングを中心とした物流サービスのプラットフォーム「souco」の提供

公式ホームページ: <https://www.souco.space/>

■ 株式会社アイオイ・システムについて

本社: 東京都大田区大森北 1-6-8

設立: 1984 年 3 月

代表取締役: 多田 潔

事業内容: デジタルピッキングシステム等、物流関連システム及び機器の設計、開発、製造販売、設置工事等

公式ホームページ: <https://www.hello-aioi.com/>

■ 凸版印刷のベンチャー投資について

凸版印刷は、中期的な経営課題の 1 つとして新事業・新市場の創出を掲げ、2016 年 7 月から現在までに国内外 50 社強のベンチャー企業へ出資してきました。ベンチャー企業の先進的な技術やサービスと、グループ会社を含む凸版印刷の持つ企画力・技術力を掛け合わせることで、社会に向けた新しい価値を創造しています。

DX のさらなる加速、およびニューノーマルな社会で新事業を創出するべく、今後も積極的にベンチャー企

業との連携を推進していきます。

■「Erhoeht-X®(エルヘートクロス)」について

「Erhoeht-X®(エルヘートクロス)」とは、凸版印刷が全社をあげ、社会や企業のデジタル革新を支援するとともに、当社自体のデジタル変革を推進するコンセプトです。

「エルヘート」は、当社創業の原点である当時の最先端印刷技術「エルヘート凸版法」から名付け、語源であるドイツ語の「Erhöhen(エルホーヘン)」には「高める」という意味があります。

凸版印刷は、これまで培ってきた印刷テクノロジーの更なる進化とともに、先進のデジタルテクノロジーと高度なオペレーションノウハウを掛け合わせ、データ活用を機軸としたハイブリッドな DX 事業を展開し、社会の持続可能な未来に向けて貢献していきます。



(※1) アカウントの合計数

倉庫提供企業アカウントと荷主企業アカウントの単純合計数

(※2) デジタルピッキングシステム

工場や物流センターの作業者が、表示器のランプが光った場所に足を運び、表示された数だけ商品を取り出すことで、誰でも簡単に、素早く正確なピッキング作業を行うことが可能となる仕組みのこと

https://solution.toppan.co.jp/secure/service/picking_system.html

(※3) 「凸版印刷、デジタルピッキングシステムのアイオイ・システムを子会社化」(2021/5/28)

https://www.toppan.co.jp/news/2021/05/nwsrelease210528_2.html

(※4) <https://www.mlit.go.jp/seisakutokatsu/freight/content/001409564.pdf>

* 本ニュースリリースに記載された商品・サービス名は各社の商標または登録商標です。

* 本ニュースリリースに記載された内容は発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。

以 上